

日本で見られる代表的な2大ホタル、その違いは・・・？

見に行こう ホタルを

ヘイケボタル

大きさ：オス 約0.8cm

メス 約1.0cm

由来：ゲンジボタルより小さいことから
(源平合戦で平家が敗れたため)

すみか：水田や池などの止水域

鑑賞：6月下旬～7月中旬

飛び方：直線的に飛ぶ

ゲンジボタル

大きさ：オス 約1.5cm

メス 約2.0cm

由来：源平合戦で戦死した源頼政が亡霊となりホタルになって戦うという伝説から

すみか：河川、水路などの流水域

鑑賞時期：6月中旬～6月下旬

飛び方：曲線的に飛ぶ

名前の由来はこれ以外にも諸説あり



どんな日によく見られる？

月明かりのない暗い夜

気温が高く風のない、湿度の高い日

ホタルの光

- ・オスがメスを見つけるために光る
- ・ルシフェリン（発光物質）が酵素の働きで酸化する時に発光。
- ・東日本は4秒、西日本は2秒間隔で光る。

ホタルとともに生きる

ホタルは古来より、日本人にとって「やすらぎ」を与えてくれる身近な生き物であった。そんなホタルが各地で見られなくなり、便利な社会が追求される今、「自然」と「心の豊かさ」を取り戻そうという取組みがはじまっている。

ホタルについての学習会や、現地視察等を通じ、慈恩寺太郎地区にホタルの住める貴重な環境を守つていこうと活動を展開しているのが、寒河江慈恩寺「ホタルの里プロジェクト」だ。

今後はさらに活動を展開したいと協議会の阿部さんは語ってくれた。寒河江の特産品でもあるさくらんぼの時期と、ホタルを観賞できる時期が同じこと等、広域的な連携を含め活動の可能性は広がっている。

市内でも有名だった「ホタル観賞エリア」をよみがえらせ、地域を盛り上げていこうと夢はふくらむ。ホタルが人々を集め、人々が行動をおこすことでホタルはまたさらに集まってくる相乗効果を期待している。

ホタルを見たことのない人でも、どこかでやすらぎ、懐かしさを感じるホタルと人とが共生する地域。ぜひ一度足を運んでみてはいかがだろうか。



NPO 法人
グラウンドワーク寒河江
理事 阿部高之さん



NPO 法人
グラウンドワーク寒河江
理事長 佐藤順一さん

お問合せ

寒河江慈恩寺「ホタルの里プロジェクト」協議会

事務局「NPO 法人グラウンドワーク寒河江」

電話 / FAX 0237 - 85 - 0206

E-Mail gwsagae-01@ic-net.or.jp

寒河江慈恩寺

ホタルの里プロジェクト

山形の誇るべき文化財のひとつ、慈恩寺。その西北部の山あいに、小さな美しい生き物たちがひっそりと暮らしている。

人里・里山という「人と自然の境界線」がある。人里の生き物であるホタルには、ある程度人の手で管理・保全された場所が必要なのである。

慈恩寺太郎(じおんじたらう)地区では、耕作放棄地の増加により、かつて千匹余りが乱舞していたホタルも、今では数えるほどとなってしまった。耕作放棄地では、食物連鎖がとまり、ホタルの生息が困難な状況となっている。

ホタルと人々が共生できるような自然環境の復元を目指し、人々は立ち上がった。



山形県指定有形文化財
本山慈恩寺三重塔

人と自然との境界線 に 彼らは暮らしている・・・